

2016 (平成28) 年9月1日 館外講座だより25 (最終号)



第 38 回目となるバスツアーは、平成 27 年 9 月 10 日の関東・東北豪雨で鬼怒川が越水・決壊し、大きな被害を受けた茨城県西の鬼怒川下流域を訪れました。常総市では後世に引き継いでいく市民の大切な財産である行政文書を永年保存するための書庫が、床上 92 cm の浸水被害を受け、約 1 万数千点の行政文書が水没しました。ツアーでは、当時の状況をお聞きし、現在本格化している行政文書の修復作業を見学しました。午後は、さまざまな災害に対処している防災科学技術研究所で、最新の防災体制を体験しました。防災の日にふさわしい有意義な 1 日となりました。

みなさんのアンケートから 女性○、男性●、(参加回数) です。

◆常総市役所 (水害について)

- 倉持さん、詳しく説明してくれて感謝。1 年経ってもカビ臭があり驚き (6 回目)
- 突然の堤防決壊、被害にあった時の様子から行政文書の修復作業までの記録がよくわかりました (11 回目、ほか多数)
- 時にユーモアを交えて、重い話を明るく話して下さいました。私の実生活にも役立てたらと考えました (6 回目)
- 市役所自体が水害にあわれ、大変。1m の水位を見て驚きました。葛飾に住んで人ごととは思えません (初参加)
- 詳細に分かり易く説明されて、水害の大きさが理解出来ました。地盤高低差がかなり影響することも納得しました (10 回目)
- 新築にて水害とは、明日は分らぬ運命なのだと感があります (5 回目)
- 今回の水害は人間の力では防備できません。水害のおそろしさを後の人々に伝承して行く事が重要と想いました (6 回目)
- 2 つの川にはさまれた地形、葛飾区に似ている。想定外は考えない事と心にとめる (20 回目)
- 気象災害のすさまじさ!!! 行政も被災者の一人だった (21 回目)
- 台風の場合は、地震に比べ、水害の予知がしやすいので、早めの対処が必要だと思いました (2 回目)
- 倉持さんの話で、多数の救援ヘリコプターが救助出動した事及び水害が発生すると多量のゴミが発生する事も解りました (5 回目)
- ほんの 1 年前の災害からの復興、目印がないとどこまでの浸水があったのか解らなくなっているなと思いました (12 回目)



常総市役所総務部総務課 法制室長 倉持 敏さんに説明をうけました。



庁舎入口は 95 cm 浸水



1997. 1. 17 阪神淡路大震災の地から贈られた希望の灯



文書倉庫の見学

◆行政文書の修復作業



- 古文書の再生について詳しく説明を受け、大変参考になりました。貴重な行政文書の保管について、永久保存管理への対策が遅れていることに危惧を感じました。水害対策については、どこの市町村も後手で、庁舎1階には非常用発電や燃料など危機管理施設は是非作らせない、置かないように法制化を検討してほしいと思います（8回目）
- 戦前からの資料が水害にあった。修復の大変さがわかった。数年かけての作業ごころうさまです（6回目）
- 江戸時代からの資料に新しい記憶が塗りこまれ、読み続けられる。

修復作業にたずさわっている人々の祈りと願いがこめられて（21回目）。

○水につかるのは一瞬なのに、後の手入れは大変なことですね（4回目）

●古文書の価値は???解ります。保管には利用を含め、お金をかける必要性を感じました。再生の時間や労力を考えると、管理者の理解が遅れていることがネックだと感じました（8回目）

●小生もボランティアで行きたいくらい。大変な作業です（10回目）

○息の長い作業で興味のある人達、ボランティアの力が必要と感じました（2回目）

◆車中からの景観・道の駅しもつま

●展望台に昇ってみた、周囲の田畑は実りの季節を迎えようと色づいている。平将門の時代に思いを馳せた。当時は大小の川が錯綜し、葦荻といたるところ池塘が点在していたのであろう（6回目）

○土手をいつもと違う目で眺めた。通常は車やバイクで通る道も、大型バスだと視線が高くてちがってみえた（初参加）

●田園の美しさ、台風、水害等の農作物への被害が無いように祈りました（12回目）

○元祖下妻井ーおいしかったわv (^_^)v 豚が名物ー名物に美味しいものあり♥（21回目）



復旧した上三坂の堤防とがんばったヘーベルハウス！



◆防災科学技術研究所

○バナダさんには、多くの施設の案内や説明をして頂きました。個人ではなかなか来られない所を細かく説明があり、災害への対応を様々なやり方で行われていることを知りました（25回目、ほか多数）

○地震座ぶとんの体験をした。いつはじまり、いつ終るかわかっている装置に乗ると、いつ終るかわからない実際の地震では、恐怖の度合いが別物だと感じた（初参加）

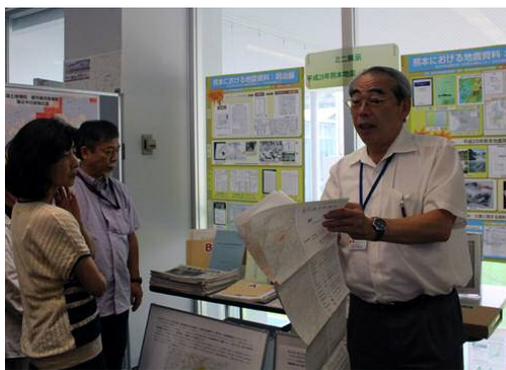
○ハイテクノロジー研究所を見学でき、見聞する事の大切さを学びました（6回目）



バナダ 恵さん



広大な施設、バスで移動



自然災害情報室長 横山敏秋さん



これが地震ザブトンです！

- 内容の濃い、有意義な見学だった。大型耐震人権施設俯瞰とVTRで実験状況のシュミレーション。積乱雲観測システムはパラボラアンテナを車窓から見ただけ。大型降雨実験施設は事件はおろかVTRの説明も無く、ただ施設を見学した。でもこれだけで十分重要な実験をしていることが解った。何より有意義だったのは「地震ザブトン」…、横揺れだけであんなになるとは…(6回目)
- 5年ぶりにヘルメットを着用したら、5年ぶりでH社社員に会った。定年まで勤務したクリーム色のヘルメット、グリーンの作業服、思わず声をかけた。フロアと部が異なるので知らない顔。当所で作業中のこと。会社を辞して5年経っているし、知らなくても当然。安全に作業するよう声をかけた(6回目)
- 地震、土砂災害、津波、水害等、自然災害に関する研究を少ない予算、人員で行っておられることに感謝・尊敬の念を感じました(12回目)
- 大型実験施設にはおどろいた。しかし大災害は単純なモデルでは説明できない。複合した事象が重なって、大災害になることが多い。この辺を研究者はどう考えるのか?ぜひきてきたいところである。もう想定外とは言わせない!(10回目)

○日本の地震の地図をもう1枚もらったので田舎に送ります。降雨実験等、日本の為になる事をしてもらって良かった(初参加)

- 家具を固定する事が被害を小さくする事が解りました。図書館で目を引いた本が有りました。微生物がゼシウム等の原子物を食べてエネルギーにする微生物が居る?の本、本当であれば朗報と思った(5回目)
- 大変勉強になりました。大地震には会いたくないですね。昭和22年水害の浸水地図を見て当時を思い出しました(20回目)
- 広い敷地に豊富、充実した資料は大変勉強に成った。案内の方が大変温かい説明で良かった(15回目)

◆その他・自由欄

- 台風10号は、東北・北海道に大きな被害が出てしまいました。此度も予想を越えてしまいました。警戒や対策も大切ですが、やはり地球の温暖化を何とかせねばならないと思います……渡辺さん(2016.8.26環境学講座講師岩手県大槌町職員)たいへんなお仕事になっているのでしょうか(25回目)
- 今日の見聞を心に留め、明日おきるかもしれない地震と水害(葛飾ではこれでしょう)のリスクから身を守るため、まずは一人防災訓練から始めよう(21回目)

ツアー後期

2001年8月、葛西用水の源である利根川の堤防に立ってから、17年。多くのみなさんと一緒にバスツアーも、38回を数えた



今回で終了させていただきます。河川・火山・地質・防災…、環境と開発、自然と人間の相剋を体感した意義ある17年でした。お訪ねした施設や機関、また安全な走行を常に心がけていただいた東京パッセンジャー(旧内山観光)さん、歴代のスタッフ、そしてご参加いただいたみなさんに深く御礼申し上げます。災害列島日本、自然に想定外はないことを胸に刻み、6年目となる3.11を迎えたいと思います。

担当学芸員 橋本直子 補助 博物館専門調査員 勝田真幸



葛飾区郷土と天文の博物館
 〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
 TEL 03(3838)1101 <http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/>



大型震動台



大型降雨装置

TOUR DATA		
時間	経過	時間
7:41	博物館出発	
7:53	四つ木IC	
8:45	谷原IC	
9:03	常総市役所	97分
11:37	道の駅 しもつま	87分
13:44	防災科学技術研究所	151分
16:40	つくば中央IC	
16:58	守谷SA	19分
17:51	四つ木IC	15分
18:00	博物館着	
東京パッセンジャー フェニックス号		
ドライバー:野畑 義昭さん		
走行距離:168 km (倍率1.0倍)		
応募44名、当日参加44名		
参加費3300円		

